

海からの獣 = ローマ教皇権 (黙示録 13:1-10)

*聖書が忠告しているのはローマ教皇権という「権威 (システム)」であって、特定の個人または宗教団体ではありません。

神を汚す名 (13:1) :
666 (黙 13:18)

十本の角と冠(13:1) :
十人の王
(ダニ 7:7; 黙 17:12)
*数字の 10 は“すべて”を
象徴する

ししの口~(13:2) :
バビロン(ダニ 7:4)

くまの足~(13:2) :
メデア・ペルシャ(ダニ 7:5)

七つの頭 (13:1) :
バビロンから始まり、ローマ
教皇権の復活までの国々
(ダニ 7:7,17,23; 2:37-39;
黙 17:10,12)

海 (13:1) :
民族、群衆、国民、国語
(ダニ 7:2;イザ 17:12,13;黙 17:15)

ひょうに似て~(13:2) :
ギリシャ(ダニ 7:6)

黙示録 13章の流れ

黙示録は13章のみならず、全体を通して文章構成がとてもユニークです。ひょっとしたら、話が前後したりしてわかりづらいと感じる時もあるかもしれません。以下に13章の流れをまとめてみました。参考にしてみてください！

過去—13:1-3：海からの獣の説明

未来—13:3,4：死ぬほどの傷がなおり、全世界が獣と龍を拝む

過去—13:5-7：獣の活動の詳細

未来—13:8：死ぬほどの傷がなおったとき、全世界が獣を拝む

過去—13:9-10：死ぬほどの傷を獣が受ける

未来—13:11-18：地からの獣の命令により、全世界が海からの獣を拝む

海からの獣と気になる聖句

13:3 - 死ぬほどの傷を受けた頭 → なおってしまった

- 頭の一つだけが致命的な傷を受けた
- つるぎの傷を受けた (黙 13:10; 13:14; マタ 26:52)
- つるぎを使った (黙 13:10)
- つるぎ = 神の言葉 (エペソ 6:17; ヘブル 4:12)
- 聖書の言葉を間違って使った (黙 13:5; ダニ 7:25; マタイ 4:1-11)

13:4 - 獣に与えられた龍の権威 → 人々は龍と獣を拝んだ

- サタン(黙 12:9)の権威が獣に与えられた

13:5 - 42ヶ月間活動する権威 = 天と神を汚し、聖徒に勝ち、すべての人を支配する権威

- 1日=1年 (エゼ 4:6; 民 14:34)
- 昔のカレンダー：1年=360日
- 42ヶ月=3年半=1260日 → 1260年

ダニエル書7章と黙示録13章

ダニエル書7章と黙示録13章には、たくさんの似ている点があります。なぜ似たような預言を何回も神様は私たちに与えてくださったのでしょうか？私たちの神様の預言には“前の預言を後の預言で繰り返して、更に大きな意味を預言全体に加える(repeat & enlarge = recapitulate)”という法則があります。ですから、わからないことがあったら、“前の預言”に戻ってみたり、“後の預言”に目を向けてみたりすると、何か神様からヒントをいただけるはずですよ！

ダニエル書7章

7:4 - 第1の獣：ししのように…わしの翼をもっていたが…翼は抜きとられ…人の心が与えられた。

7:5 - 第2の獣：熊のよう…からだの一方をあげ…三本の肋骨をくわえていた。

7:6 - 第3の獣：ひょうのような獣で…背には鳥の翼が四つあった。

7:7 - 第4の獣：恐ろしい、ものすごい、非常に強いもので、大きな鉄の歯があり…十の角を持っていた。

7:25 - 小さい角の活動期間：聖徒はひと時と、ふた時と、半時(1260日(年))の間、彼の手になたされる。

黙示録13章

13:1,2 - 海からの獣：わたしはまた、一匹の獣が海から上って来るのを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のように、その口はししの口のようにであった…

13:5 - 獣の活動期間：この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた。